

研究課題名	切除不能膵癌における modified Glasgow prognostic score と化学療法治療成績の関連
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
研究期間	2025年 8月 27日～ 2030年 12月 31日
対象者	2023年7月から2028年6月の間に、広島大学病院消化器内科で切除不能膵癌と診断された患者さん
意義・目的	<p>膵癌は依然として最も侵襲性の高い悪性腫瘍の一つであり、5年生存率はわずか8.5%であると報告されています。膵臓癌の約80%は診断時に切除不能と判断され、そのような切除不能膵癌に対する標準治療は全身化学療法です。現在、FOLFIRINOX（フルオロウラシル、ロイコボリン、イリノテカン、オキサリプラチンの併用療法）、用量を調整した modified FOLFIRINOX（mFFX）、ゲムシタピン+ナブパクリタキセル併用療法（GEM+nabPTX；GnP）などのレジメンが第一選択療法として広く用いられています。</p> <p>CRP とアルブミン（ALB）値を組み合わせた modified Glasgow Prognostic Score（mGPS）という指標は、多くの癌腫における予後予測因子として知られていますが、切除不能膵癌において一次化学療法の治療成績との関連については十分に検討されていません。この関係性を検討するために、当施設で mFFX または GnP による治療を受けた切除不能膵癌患者の後方視的研究を行うことを計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査、各種画像検査、化学療法の種類、投与量、投与期間などです。</p>
共同研究機関	ありません
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
試料・情報の利用を開始する予定日	2025年 8月 27日
個人情報の保護について	<p>取得した情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。</p> <p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p>

研究への利用を辞退する場合等について

研究に情報を提供したくない場合は下記の間合せ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

問合せ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5193

広島大学病院消化器内科 職名 助教 氏名 中村 真也